

- 問1 室町時代の出来事を記した年表において、1428年に発生した「正長の土一揆」は、日本で最初の組織的な土一揆として知られています。この一揆において近江国の運送業者である馬借が果たした役割や背景として、最も適切な説明はどれか選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- 馬借は惣と呼ばれる農民の組織から独立した存在であり、年貢の減免を求めて各地の守護大名と戦った。
 - 馬借は各地の情報を素早く伝達し、広い範囲の農民が団結して徳政を求めるときかけを作った。
 - 馬借は京都の自治を担う町衆と協力し、室町幕府の将軍を追放して新しい政府を樹立した。
 - 馬借は幕府から独占販売権を得ていた座の一員であり、特権を守るために農民を武力で鎮圧した。
- 問2 後醍醐天皇が始めた建武の新政において、多くの武士が不満を抱き、結果として足利尊氏らが離反する原因となった状況として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
- 土地の所有権などを判定する際、武士よりも公家や寺社が優先され、十分な恩賞が得られなかったため。
 - 元（モンゴル）の襲来を防いだにもかかわらず、防衛にかかった費用への補償が一切なかったため。
 - 守護や地頭が廃止され、代わりに全国の土地が直接中国の王朝によって管理されることになったため。
 - キリスト教の布教を禁止したこと、南蛮貿易による利益が激減し、武士の生活が困窮したため。
- 問3 室町時代の流通や経済状況について、当時の統計資料では、特定の少数の勢力が市場の取引において独占的な地位を占めていたことが示されています。このような社会背景において、室町幕府や寺社が行った経済政策として正しいものを選んでください。 (2024年 長野県公立入試 類似)
- 交通の要所に関所を築き、人々の移動や物資の輸送に対して通行料を課した。
 - 問屋が全国の市場を支配することを禁じ、すべての流通を武士が直接管理するようにした。
 - 貨幣の使用を禁じて米による物々交換を奨励し、寺社の特権をすべて剥奪した。
 - 座と呼ばれる団体を廃止し、誰でも自由に商売ができる楽市・楽座を全国で展開した。
- 問4 室町時代の文化において、雪舟が果たした役割やその作品の特徴を説明したものとして、最も適切な内容を選んでください。 (2026年 長野県公立入試 類似)
- 墨の色の濃淡やぼかしを使い分けることで、空間の奥行きや自然の精神性を表現した。
 - 金箔を多用した豪華絢爛な背景に、獅子や松などの力強い対象を濃い色彩で描いた。
 - 庶民の風俗や日常生活、役者の姿などを木版画によって大量に制作した。
 - 遠近法や陰影法などの西洋画法を取り入れ、現実の風景を写実的に描写した。
- 問5 慈照寺（銀閣）が建立された時期の日本の状況と、その場所が位置する現在の都道府県の組み合わせとして正しいものはどれですか。なお、時期については、足利尊氏が幕府を開いた1336年から、織田信長が将軍を追放した1573年までの間を基準とします。 (2020年 東京都公立入試 類似)
- 鎌倉時代・神奈川県
 - 江戸時代・東京都
 - 室町時代・京都府
 - 安土桃山時代・大阪府
- 問6 15世紀、沖縄本島を中心に成立した琉球王国が、中国（明）や日本、朝鮮、東南アジアなどの国々の間を仲立ちし、それぞれの地域の産物を転売することで大きな利益を得た貿易の名称は何といえますか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
- 南蛮貿易
 - 中継貿易
 - 朱印船貿易
 - 勘合貿易
- 問7 室町幕府の仕組みを説明した資料において、将軍の補佐役である「管領」の職に就くことができた人物の説明として、最も適切なものを選んでください。 (2025年 鹿児島県公立入試 類似)
- 天皇を補佐する公家の中から、学問に優れた者が任命された。
 - 将軍の直接の家臣である旗本の中から、実力のある者が選ばれた。
 - 代々将軍家に仕えてきた北条氏の一族が独占的に世襲した。
 - 細川氏や斯波氏、畠山氏といった、有力な守護大名が交代で就任した。
- 問8 鎌倉時代から室町時代にかけての日本国内における貨幣の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
- 貨幣の代わりとして、各藩が発行した独自の紙幣である藩札が広く一般的に使われた。
 - 政府が和同開珎などの銅銭を国内で鋳造し、全国的な流通を強く促した。
 - 中国の宋や明から貿易によって大量に輸入された銅銭が、主な通貨として流通した。
 - 江戸幕府によって鋳造された慶長小判などの金貨が、全国の市場で中心的な役割を果たした。
- 問9 15世紀初め、沖縄本島に並立していた北山・中山・南山の三つの勢力を統一して琉球王国を建国した人物と、この国が東アジアの国々を結びつけて行った貿易の名称の組み合わせとして正しいものはどれか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 足利義満 — 中継貿易
 - 尚巴志 — 南蛮貿易
 - 足利義満 — 勘合貿易
 - 尚巴志 — 中継貿易
- 問10 室町幕府の統治機構は、先行する武家政権の仕組みを継承しながらも、地方統治を強化する特徴を持っていました。将軍の直下に置かれた役職と、東国の統治を担った組織の組み合わせとして正しいものを選択してください。 (2024年 徳島県公立入試 類似)
- 管領と鎌倉府
 - 老中と京都所司代
 - 執権と六波羅探題
 - 大老と長崎奉行
- 問11 室町時代、農民たちは「惣村」と呼ばれる自治組織を作り、村の運営を自分たちで行うようになりました。14世紀初頭には屋敷地が点在していた村でも、15世紀後半になると屋敷を一箇所に集め、周囲に「濠（ほり）」をめぐらせる形態へと変化した事例が見られます。このような村が作られた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 長野県公立入試 類似)
- 外敵や戦乱から村を守るため、自衛の機能を高めること
 - 城下町を建設し、周辺地域との商業取引を盛んにすること
 - 幕府が農民の移動を制限し、居住地を管理しやすくすること
 - 庄園領主による支配を強化し、年貢を確実に徴収すること
- 問12 16世紀の明（中国）において、北方のモンゴル族による侵入と、南方の沿岸部で活動した倭寇による被害が並行して発生し、国家を苦しめた情勢を指す言葉は何ですか。 (2026年 山形県公立入試 類似)
- 北虜南倭
 - 下剋上
 - 鎖国令
 - 文禄・慶長の役
- 問13 室町時代に日本と明の間で行われた貿易において、正式な貿易船であることを証明するために「勘合」と呼ばれる合い札が使用された理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- キリスト教の布教を目的とした宣教師の入国を厳しく制限するため
 - 貿易によって得られた利益を幕府と明の政府で均等に分配するため
 - 東アジアの沿岸で活動していた海賊である倭寇による密貿易を防止するため
 - 輸入品である生糸の価格が国内で高騰するのを防ぐため

答え合わせ・解説

問1	答え 2 馬借は各地の情報を素早く伝達し、広い範囲の農民が団結して徳政を求めるきっかけを作った。	1428年の正長の土一揆は、近江国の馬借が徳政（借金の帳消し）を求めて蜂起したことが始まりです。馬借は日常的に広い範囲を移動して物資を運んでいたため、各地の情報を素早く伝えるネットワークを持っていました。このネットワークが活用されたことで、近江から大和（奈良県）や京都へと一揆が波及し、室町幕府に対して徳政令の発布を迫る大規模な運動へと発展しました。
問2	答え 1 土地の所有権などを判定する際、武士よりも公家や寺社が優先され、十分な恩賞が得られなかったため。	建武の新政は天皇親政を目指すあまり、鎌倉幕府を倒すために戦った武士たちの功績を軽視し、公家を露骨に優遇する内容でした。特に、武士にとって最も重要な「土地の権利」を認める裁定が遅れたり、公家に有利に出されたりしたことが決定的な不満となり、再び武家政権を求める動きへとつながりました。
問3	答え 1 交通の要所に関所を築き、人々の移動や物資の輸送に対して通行料を課した。	室町時代は「座」と呼ばれる商工業者の団体が、寺社や公家などの権力者に奉仕する代わりに販売の独占権を得るなど、特権的な勢力が経済に強い影響力を持っていました。これと同じく、室町幕府や寺社もまた、自らの支配地や重要な街道に関所を設置して通行料を得ることで、流通から利益を吸収していました。織田信長が行った楽市・楽座はこの関所や座の特権を否定しようとしたものであり、室町時代の傾向とは対照的です。
問4	答え 1 墨の色の濃淡やぼかしを使い分けることで、空間の奥行きや自然の精神性を表現した。	雪舟は、墨一色という制約の中で、筆使いの強弱や墨の薄さをコントロールすることで、光や空気感までも表現する水墨画を完成させました。金箔を用いる手法は安土桃山時代の障壁画、木版画による庶民文化の描写は江戸時代の浮世絵の特徴であり、これらと区別する必要があります。
問5	答え 3 室町時代・京都府	慈照寺は、室町幕府の第8代将軍である足利義政が京都の東山に築いた山荘が寺となったものです。この時期は室町時代の中期から後期にあたります。義政は応仁の乱という戦乱のさなかにありながら、この地で東山文化を育みしました。
問6	答え 2 中継貿易	琉球王国は地理的な利点を活かし、東アジアと東南アジアを結ぶ交通の要所として機能しました。自国の産品を売るだけでなく、明から輸入した絹織物や陶磁器を日本や朝鮮、東南アジアへ運び、逆に東南アジアの香料や染料を明へ運ぶといった、品物を右から左へと流す商法で繁栄しました。
問7	答え 4 細川氏や斯波氏、畠山氏といった、有力な守護大名が交代で就任した。	管領は、足利氏の一族である細川・斯波・畠山の三家（三管領）が交代で務める仕組みとなっていました。これは、幕府が有力な守護大名の連合体としての性格を強く持っていたため、特定の家系だけでなく有力者の力をバランスよく取り入れる必要があったという背景があります。
問8	答え 3 中国の宋や明から貿易によって大量に輸入された銅銭が、主な通貨として流通した。	日本では10世紀後半から自国での貨幣鑄造が途絶えていましたが、中世に入り商業や貿易が活発化すると貨幣の需要が高まりました。そのため、日宋貿易や日明貿易を通じて中国から宋銭や明銭を輸入し、それらが国内で広く利用されるようになりました。
問9	答え 4 尚巴志 ― 中継貿易	琉球王国は1429年に尚巴志によって統一されました。地理的に日本、中国、東南アジアの間に位置していたため、それぞれの地域の特産品を仕入れて他国へ売る「中継（なかつぎ）貿易」によって繁栄しました。選択肢にある南蛮貿易は戦国時代にヨーロッパ諸国で行われた貿易であり、勘合貿易は足利義満が明との間で行った貿易です。
問10	答え 1 管領と鎌倉府	室町幕府の中央組織では将軍の下に「管領」が置かれ、侍所・政所・問注所といった鎌倉幕府以来の機構を統括しました。また、地方組織としては、関東10か国を統治するために「鎌倉府」を置いたことが大きな特徴です。執権と六波羅探題は鎌倉幕府の、老中や京都所司代、大老などは江戸幕府の組織です。
問11	答え 1 外敵や戦乱から村を守るため、自衛の機能を高めること	室町時代中期以降、応仁の乱などの戦乱が続く中で、農民たちは自衛のために結束を強めました。それまでバラバラだった屋敷地を集中させ、周囲に「濠」や土塁を築くことで、敵の侵入を防ぐ「環濠集落」が形成されました。これは惣村による自治の進展を示す象徴的な村の形態です。
問12	答え 1 北虜南倭	明の時代、北からのモンゴル族（北虜）と南からの倭寇（南倭）という二つの外敵に悩まされた状況を「北虜南倭」と呼びます。この時期の倭寇は「後期倭寇」と呼ばれ、日本人だけでなく中国人も多く含まれていました。明はこれに対抗するため、民間の海上取引を禁じる海禁政策をとりましたが、かえって密貿易や海賊行為を助長させる結果となりました。
問13	答え 3 東アジアの沿岸で活動していた海賊である倭寇による密貿易を防止するため	当時、東アジアの海域では倭寇と呼ばれる海賊が活動し、非公式な略奪や貿易を行っていました。明はこれを取り締まり、正式な許可を与えた船のみと取引を行うために、二枚の札を合わせることで本物と確認する「勘合」の仕組みを導入しました。